

LOCK-N-STITCH JAPAN News Letter(vol.15)



LOCK-N-STITCH JAPAN News Letter(vol.15)

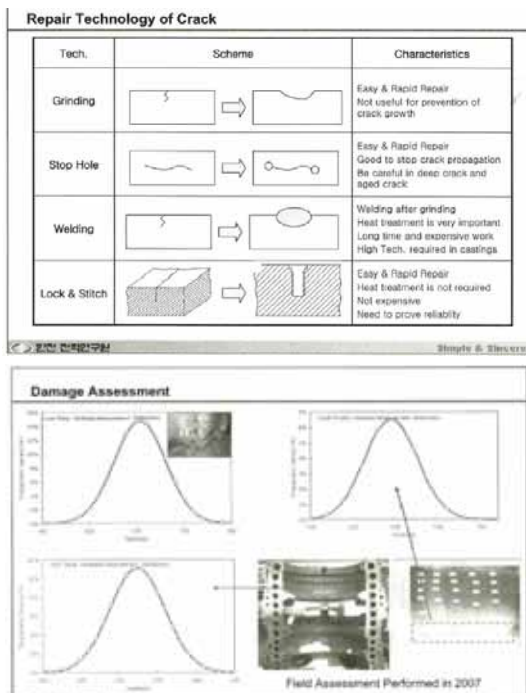
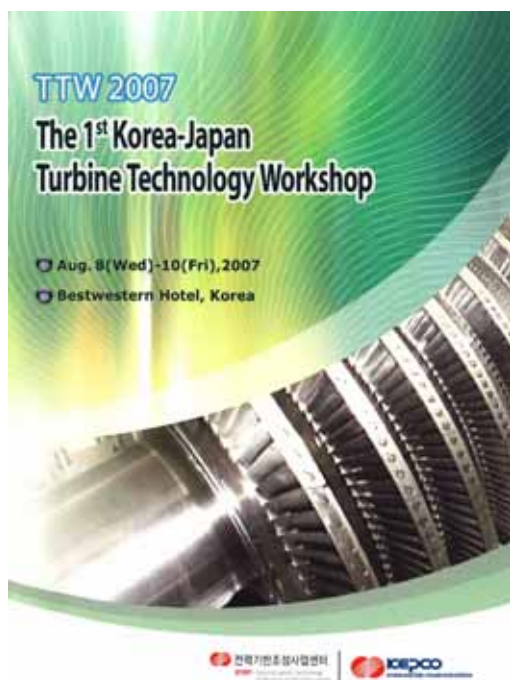
September 2007

LOCK-N-STITCH JAPAN NEWS へようこそ

はじめに

弊社は、特殊ネジを使用して、金属に発生したクラックの修理を行うエンジニアリング企業として活動しております。

今回は8月8～10日まで韓国のソウルで行われました【第1回日韓タービン技術研修会】にて、弊社工法が紹介されました。（下記文面抜粋）



【解説】

この研修会は日韓のタービン技術を発表するもので、両国の電力会社やメーカーの関係者が発表を行いました。内容はタービンの品質向上やクラックについてが主流でした。

弊社工法で修理を行った「ヨス火力発電所」(KEPCO)の技術者が弊社工法を『新たなクラックの修理方法』として発表いたしました。内容としては修理部の解析や低サイクル疲労試験などを行い、周囲の部材と同等で健全性があることを表記しております。

【メンテナンステクノロジー2007へ出展】

11月6日～9日まで東京ビックサイトで行われる【メンテナンステクノロジー2007】へ出展いたします。今回は展示会場でデモ施工を行います！弊社工法がより具体的にご覧いただけます。

なお、ご来場をご希望の方は人数を明記の上、こちらのメールアドレスへご返信ください。後日、無料招待券をお送りいたします。

この招待券では同時開催の「非破壊評価総合展」、「INCHEM TOKYO2007」、「計測展2007」もご覧いただけます。

生産設備と社会資本ストックの保全・診断・補修・維持管理技術とソリューションの専門展示会

メンテナンステクノロジー2007

主催：社団法人 日本能率協会 社団法人 日本プラントメンテナンス協会

2007年
11月6日(火)～9日(金)
10:00～17:00 (最終日は16:30まで)

東京ビックサイト
有明・東京国際展示場 (東ホール)

来場事前登録(無料)受付中!!
11月9日(金)まで

目次: page

日韓タービン技術研修会での弊社技術紹介 1

メンテナンステクノロジー2007出展のご案内 1

Full-Torque国内修理実績 2

ピアノフレーム修理実績 3

ハイライト:

日韓タービン技術研修会
メンテナンステクノロジー2007
出展のご案内

Full-Torque修理実績
ピアノフレーム修理実績



The Art of Crack Repair & Thread Inserts

Full-Torque 修理実績紹介

今回は、雌ネジ補修キット「Full-Torque」を用いて、弊社エンジニアにて大型船舶エンジン点検扉の雌ネジ穴の補修を行った修理例をご紹介します。



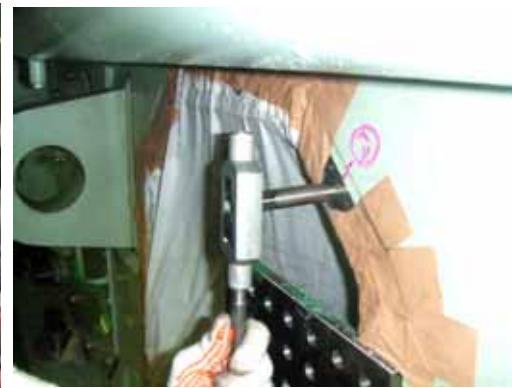
大型船舶エンジン概要



クランクケース点検扉のボルト穴を修理



ドリル作業及びヘリサートの除去



Full-Torqueを挿入する為のタップ作業



Full-Torque挿入作業



表面仕上後、施工完了

解説

本件はボルト穴が『かじった状態』になり、お客様が「ヘリサート」を挿入いたしました。しかしこの箇所については何回も脱着を行うにつれて、ヘリサートも駄目になっている状態でした。このような場合でも弊社の「Full-Torque」で修理は可能です。Full-Torqueの下穴サイズがヘリサートの下穴サイズより大きく出来ており、ヘリサート挿入後でも修理可能となります。

また弊社の特許ネジと同じく周囲の母材を引き寄せる力がございますので、肉薄部にも使用できます。材質も快削鋼 + 焼入れをしておりますので、母材雌ネジ山強度とほぼ同等となります。他社製品とは異なり恒久的な雌ネジ補修キットになります。

この「キット」販売に関してはお気軽に弊社までお問い合わせください。

CASTMASTER™

特殊ネジ
(Cシリーズスティッチングピン)の特徴
ねじを締め込むことで牽引力が発生します。
施工箇所には耐圧力性能を持たせることが可能です。
(19.6MPa以上)



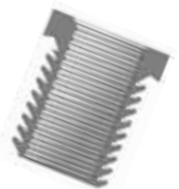
LNS LOCK

クロムモリブデン鋼SCM430に表面処理を施したもので、クラック部の補強に使用されます。



Full-Torque Insert

ボルトホルの補修に使用されるものです。従来品に比べ、母材の周囲に拡散力を生じない為、補修する部品の母材強度を低下させることなく補修できます。



The Art of Crack Repair & Thread Inserts

ピアノ フレーム 修理実績紹介

今回は、以前アメリカでの「ピアノフレーム」の実績を紹介いたしましたが、国内でピアノのフレームを修理いたしましたので、修理例をご紹介します。



アップライトピアノ フレーム状況



特殊ピン施工の為、ドリル加工作業



特殊ピン (C3) 施工



補強材(LOCK15)施工作業



表面仕上げ作業



施工完了 (青丸部補修)

解説

このピアノは世界に99台しか無く、日本に1台のみという大変めずらしいピアノでした。この貴重なピアノにクラックが入りお客様が補修方法について模索していた所、弊社工法を選んでいただきました。

弊社としても、貴重で文化的価値のあるピアノを補修出来た事に対して大変光栄なことで感じております。

あとがき この度は、本ニュースレターを最後までご覧頂きありがとうございました。

今後も、弊社の活動の内容や施工実績など、皆様にお知らせして行きたいと考えております。

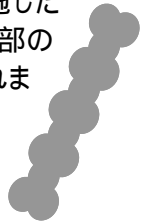
CASTMASTER™

特殊ネジ
(Cシリーズスティッチングピン)の特徴
ねじを締め込むことで牽引力が発生します。
施工箇所には耐圧力性能を持たせることが可能です。
(19.6MPa以上)



LNS LOCK

クロムモリブデン鋼SCM430に表面処理を施したもので、クラック部の補強に使用されます。



Full-Torque Insert

ボルトホール補修に使用されるものです。従来品に比べ、母材の周囲に拡散力を生じない為、補修する部品の母材強度を低下させることなく補修できます。



The Art of Crack Repair & Thread Inserts